

## 第3章 第2期大和市国民健康保険データヘルス計画の 最終評価及び考察

---

### 1. 最終評価の方法

令和5年度は事業展開中であり、実績評価ができないため、令和4年度の実績を評価するとともに、直近3箇年の経年評価を行いました。また、評価基準については次の通り中間評価の基準を踏襲しました。

(本計画及び保健事業全体について)

- A うまくいっている
- B まあ、うまくいっている
- C あまりうまくいっていない
- D まったくうまくいっていない
- E わからない

(保健事業における各評価指標について)

- a 目標を達成
- b 目標は達成できていないが、達成の可能性が高い
- c 目標の達成は難しいが、ある程度の効果はある
- d 目標の達成は困難で、効果があるとは言えない
- e 評価困難

## 2. 保健事業の最終評価

### (1) 短期的な目標

#### ① 特定健康診査受診率の向上

##### (目的)

- ・ 特定健康診査の受診率を上げることで、生活習慣病の早期発見や重症化予防、さらに医療費の抑制につなげます。

##### (考察)

- ・ 特定健康診査の勧奨通知送付数は、令和2年度～令和4年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により受診期間を延長したことから、期間延長のお知らせも兼ねて、未受診者への一斉送付としたため、件数が増加しています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により人間ドックの受診者数が減少し、それに伴い、健診結果振替件数も減少しています。

##### (今後の課題)

- ・ 特定健康診査の受診率は減少傾向にあり、目標受診率とは乖離していることから、更に受診率向上のための取組を検討する必要があります。
- ・ 受診勧奨の方法として、対象者ごとに文言を変更して勧奨通知を送付する等、工夫を凝らす必要があります。

#### (事業実績・評価結果)

事業名	評価指標	目標値	ベースライン	結果				指標判定	事業判定
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
特定健康診査 受診勧奨事業	特定健康診査受診率 (アウトカム)	40%	32.9%	31.1%	32.6%	31.8%	c	C	
	勧奨通知送付数 (アウトプット)	約3,000通	9,878通	33,915通	32,319通	30,852通	a		
人間ドック 助成事業	受診者数 (アウトプット)	400人	131人	97人	93人	100人	c	C	
	健診結果振替件数 (アウトプット)	400件	119件	88件	85件	86件	c		
	協力医療機関数 (アウトプット)	4カ所	4カ所	4カ所	4カ所	4カ所	a		

## ②特定保健指導実施率の向上

### (目的)

- ・ 特定健康診査受診者のうち、メタボリックシンドローム及び予備群(以下、メタボ等)に該当した者に対して、個別・集団指導を実施し、メタボ等を減少させ、生活習慣病の発症予防を目指します。

### (考察)

- ・ 未利用者へのアプローチとし、平成29年度より未利用者全員への電話による利用勧奨を実施しています。
- ・ 以前は全員へ個別訪問を実施していましたが、令和2年度以降は受診期間や地区別に効率的な保健指導を行いました。

### (今後の課題)

- ・ 目標実施率には達することができていないため、委託医療機関数を増やすことや、効果的な利用勧奨方法を検討していく必要があります。

### (事業実績・評価結果)

事業名	評価指標	目標値	ベースライン	結果			指標判定	事業判定
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
特定保健指導 利用勧奨事業	特定保健指導実施率 (アウトカム)	39%	21.2%	18.0%	20.2%	22.0%	c	C
	未利用者への訪問 (アウトプット)	300件	99件	23件	29件	42件	c	
	未利用者への 電話勧奨件数 (アウトプット)	約1,000件	1,000件	650件	900件	990件	a	

### ③糖尿病(性腎症)重症化予防対策

#### (目的)

- ・ 特定健康診査結果で高血糖や腎機能低下に該当する市民に対し個別訪問を行い、糖尿病(性腎症)の重症化を予防するとともに、新規人工透析導入者を減らし、医療費の削減を目指します。

#### (考察)

- ・ 令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、電話での実施を重点的におこなっているため、訪問数は減少しています。
- ・ 保健指導は訪問や電話で実施していますが、事前に送付する個別通知では「保健指導すること」を標準設定とし、拒否を除き、全ての対象の方へ保健指導を実施しています。このことから、保健指導を実施した者の約8割に行動変容が見られ、HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の維持改善率及びCKDステージの維持改善率は一定の水準を保つことができています。

#### (今後の課題)

- ・ 医療機関との連携の強化をしていく必要があります。

#### (事業実績・評価結果)

事業名	評価指標	目標値	ベースライン	結果			指標判定	事業判定
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
糖尿病(性腎症)重症化予防事業	被保健指導者における検査値の維持・改善者割合(アウトカム)	※1 i・ii) HbA1cの維持改善: 80%以上	i)83.0% ii)71.9%	※2 i)90.8% ii)75.5%	※2 i)90.0% ii)80.6%	※2 i)78.1% ii)86.0%	a	A
		ii) CKDステージの維持改善: 80%以上	89.1%	92.1%	91.2%	87.2%	a	
	訪問数(アウトプット)	i)400件 ii)100件	i)339件 ii)293件	i)37件 ii)46件	i)52件 ii)8件	i)38件 ii)12件	c	

※1 i)・・・二次予防、ii)・・・三次予防

※2 【図表3-1】のi)二次予防(保健師)の判定基準の内、①の割合

【図表3-1】 二次予防・三次予防の判定基準(令和4年度)

i)二次予防(保健師)	①高血糖(HbA1c7%以上)かつ 腎機能低下(eGFR45以上かつ尿蛋白+未満) ②高血糖(HbA1c6.5%以上7%未満)かつ 腎機能低下(eGFR45未満または尿蛋白+以上) ③高血糖(HbA1c6.5%以上7%未満)かつ 糖尿病未治療または中断が疑われる者
ii)三次予防(管理栄養士)	・ 高血糖(HbA1c7%以上)かつ 腎機能低下(eGFR45未満または尿蛋白+以上)

(2)中長期的な目標

①1人当たりの医療費の伸び率を2%台に抑制する

統一的なデータである神奈川県「国民健康保険事業状況」において、令和4年度データが出ていないため、令和3年度実績における評価を行いました。

計画策定時の 計画の方向性・目的 など	各種保健事業等を通じて、生活習慣病の早期発見・予防、生活改善や重症化予防等を図り、医療費の適正化を推進する。				
主な指標	目 標	ベースライン (令和元年度)	結果		評価
			令和2年度	令和3年度	
1人当たりの 医療費の伸び率	2%台に 抑制する	2.0%	-2.7%	6.4% ※(3.4%)	C
指標の評価の まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、伸び率がマイナスとなりましたが、1人当たりの医療費は年々増加傾向にあり、被保険者の高齢化や医療の高度化等が影響を与えている可能性があります。</li> </ul>				
計画全体で うまくできている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施体制に関して、国民健康保険関係部局が所管していた保健事業(特定健康診査)を、平成30年度から保健部局が一体的に行う体制に変更したこと等により、特定健康診査受診券とがん検診受診券の一体化や、KDBシステムを活用した各種保健事業の展開など、効率的に保健事業を実施することができています。</li> </ul>				
計画全体で うまくいっていない点	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率を向上させるために、様々な取組を行っていますが、いずれも伸び悩んでいます。</li> <li>特定保健指導の協力医療機関数(委託)が減少しており、市内病院等との連携を強化していく必要があります。</li> </ul>				
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>各保健事業の取組や関係部局との連携を今後より一層強化し、本市の健康課題を解決していく必要があります。</li> </ul>				

※()内は対前々年度(令和元年度)比の伸び率。